奥州仙臺萩

巻之弐

二

へ13
4060
1

奥州仙台萩

巻之二

一 鍋倉三谷通湯殿山十軒

一 荒浪橋之助作茂平太宮遠中嶋

117.2575(1)

49-2695

門へ 13
號 4060
巻 1

一 宗勝直則饗応の事

附 鳴神華厳経供養の事

一 三浦屋雄二の事

附 鴻田十三郎 男之酒合の事

一 系図略之酒合の事

京都帝国大学附属図書館

奥州征夷秘録巻之二

銀宗三人合通盃の事

附 中村氏奥羽通路誌の事

宗勝直則公と会して銀宗通路に付
かゝる少人をもつけおき他者にまじ
せて銀宗三人を花町にあそびさせる
事をもとうかゝ 又彼通路

117 2575(1)

社作に鳴神拳麓つ荒浪橋とふ
力量よそぐ きたる間を去へめ かゝる
て 此ものに 鎧 家の 二番 を とゝ せ 谷
かゝれの 夜 沙の 用 ゐ なづけ しこれを
法 けかゝ のちに ハ 山 の 者 を 屋
けて 舟 人 船 の 前 かゝれの 俗 と ハ
るかゝ のごゝ かゝ じ 者 を 通 ゝ
見 ゝ れ 事 を ま さ せ ける 神 ゝ 鎧 家

法 沙 蒔 目 を かつ ゝ 荒 ゝ 変 た た る 鳴
し 夕 帰 れ 腰 を 引 ま ま ゝ ま ゝ の ぼり
根 を ま り 志 忠 沙 ゝ ゝ も 増 ゝ て 元 俗 遊
し 宮 ま 遊 ま の 主 中 ゝ 中 村 に 前 屋 つ
と ゝ て 者 あ り 鎧 家 かゝ の ま ゝ く ゝ
忠 沙 ま 過 ゝ ゝ て 江 家 の 者 を 屋 し
夜 ゝ 三 宮 ま ま 通 ひ ゝ く 盛 沙 後 根 ま 世
な じ ま 武 ゝ 時 鎧 家 ゝ 者 ゝ ま ん き ま

して滅をなげいさ給んてとしけるおそれ
れなりけるこゝろ[illegible]あはせてうらなひをかけ
まんたるへきかをたゝしものこく
なはしめ給ひとそきて[illegible]七まゝ父母のこ
く親懐て[illegible]の菊こ
を[illegible]きれぐ君[illegible]をみる事[illegible]夢の
ごくまるまんば[illegible]君をみること[illegible]
くものこゝろ[illegible]君[illegible]

を見そ[illegible]に[illegible]
いとき[illegible]
あとまあくびと[illegible]
[illegible]
[illegible]
れをとり[illegible]
あて[illegible]
うまはる[illegible]

をとゝあんとゝめのゝ[illegible]ぐ[illegible]
ておとをたくむ[illegible]あり[illegible]つゝまれ
をたり[illegible]さび[illegible]ぬ[illegible]ちにかの[illegible]の
みとゝんををつゝ[illegible]義士[illegible]あて
おゐ[illegible]めそろ[illegible]ぬ[illegible]をとづま
させなゝ[illegible]ぬ[illegible]を[illegible]て
かけられまゝ[illegible]石地ら[illegible]の
鳴神[illegible]あり[illegible]て

[illegible]を[illegible]かせたけられ第日
[illegible]せられ[illegible]をを
あら[illegible]免させなゝのぞんで[illegible]をを
おりて[illegible]あるべ[illegible]
く[illegible]思[illegible]をめぐらさるべ[illegible]と[illegible]
[illegible]すくとしけをバ[illegible]
るすゝいすれば[illegible]信
[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]

ものみなれなすれのみ行あるべきを法
初とせるうれの推量なる過ゆるべき
愚きものなくらねどとどげ父祖の功
に免じて命をたすくるあいだ
世ろ発ちたつて市きるもべと
新宮の仏教をて乱れる勢なれども
四方五色もこしとなそれば凡人の
とうて死をなそれ者と

夫と

俗恐れ徒なりんぞ君に恥をた
ぶさだ一生涯なるとこと人
奴平なるうもをけしめて見びの俗
にゆしられうきこれ法あ人まちけ
らばや俗代熟顔の中あとこれ人の
世もも元の仏教ことものとの達げ道
とわがものそうそうもう命に被
義をたのこかばしめてしば大切の

御身をまろうせられるとて勝王に過去
をなりつかねるよ因果と春中の顔
くものをを驚るゆかぶりもかくらく
事をうらみ憤ぬをば自然と悲歎
中かぐやからなるら上よ信をこのもの
たまよ不だ下傷ともとばく若の姫
ところ中見をとともとおれたなりきれば
楚王御勝ぬ宮中に傷死をかる

者かりくに品を海をこのもされば龍の
涙をつかもるとのかやとそう若
をぐきて大酒をすきせたまへよ
ばくハ酒牧仕るかくそうさなるだて
よばくハ酒牧仕るとの名に過年ハ
御家中上下酒家より長ど堂蔵
よかのど所見上こ姫のこれより
元服はじりきハなーとと見出

君代大きゝかしこくれさせたまふ尼
とハ御ぶんの名聞ぞ大内
御言葉ハ心ざしの所存成遂げ
せんゆゑ軍勢いちだるしきをく
おたりそのかんせん勢中ゝ及おぼし
めされそうとハ後ちをかさる法師まれば
御家門系譜断絶
なりしをのれ人の源をあぐ

をとうゝ敵をたちたゝんとをもるとき
ぐるゝ御ハゆるをべがらびたをのれ賢
人だうしとうれを稲をかくゝ山手の
でく九郎あるゝ源氏あるゝをとゝ
ものゝ勝あらしにせんそのゝ引ゝせと
下名あれバかんへ大勢たちのりく
間在家つを作て大庭へ流あせ御
家門仙洞をとりゝ日前在事つゞ上

家かずを積のあらりをきりさだめき
ゑをいれて生絹をとりいだすたち
まちまち死にたるものをみるに人ののえだ
つくばゆくけるかいうなる前の番の白めの
上をとかをそこのゆもと英名八今
とつて鮑のこと傳のこと鮑を取
鮑にまむかうねなりぬべはは村ゞ死
をきあつまりてゞいさめをいることを他

なくなる道鮑を少人どもいはれ
あり解家れまちとらかけるか
どに今日を何日とあらぎるおとし
日夜酒宴拍子にのこをきれける
ちちあるものハとれをみることたに伊
遠あるあるものと服のまゝのもゝ
でしとくるにあせをゆぎるとゆもと宮前
たまつまみごらしてこれをいさむる

とのなきこそうたてけれ

荒浪梶之助佐倉平吉途中喧嘩の事

附 直に利三郎再論斬罪せらるゝ事

爰に佐倉平吉といふ伊達の侍あり
関東にこれある時し長屋の門を出
むきけるに路にて荒浪梶之助に行
逢ぬ元来意趣のいとをわだかまりあれ

とのなきバ途中にていさゝかの事にて
去る暮にて袖をすりあたりしと
云るを通り合たる者其中へ入口論
の長屋より大勢出合そろひて引
わけるに平吉ちからをぬき太刀ひつさげ鞘
はらひ抜合つゝ荒浪を斬
とのとおもひあなどるゆへなり中
剣どもとの夢拂へたれどもやゝと

[illegible]年[illegible]あらぐ[illegible]年たちを過ぎぬ
とかの紙たけるをんなの[illegible]
[illegible]ふと感動あり[illegible]だ
[illegible]おわ者[illegible]ちれで年ぶり[illegible]を
[illegible]されば荒海[illegible]あるべくかとゆ
[illegible]年[illegible]愛[illegible]よりかなるとぞるとゝくとも
[illegible]の[illegible]れば[illegible]とゞくあや
あらとゝびくうゝ[illegible]表

[illegible]ぬるゆゑ[illegible]
りぶ さうんにゝたちまち年
[illegible]切[illegible]とゝしつけられ[illegible]
[illegible]の[illegible]年[illegible]ある
らの八[illegible]の海[illegible]
[illegible]のさゝなりり年[illegible]あ[illegible]まり
[illegible]絶[illegible]の年[illegible]年[illegible]とと
いもざ[illegible]のち[illegible]

ゆゑとのあり[illegible]ハ[illegible]
ケ[illegible]の仕[illegible]
[illegible]
なをただものげうとしてい[illegible]
て一封[illegible]をちゑめてあれを
さし[illegible]

孟子曰宋小国[illegible]而以超北海[illegible]
人曰我不能也為長者

指教[illegible]曰我不能是不為也非
不能後也[illegible]
道[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
をるたぐひならん[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

知あるゝとあるべかゝれ義あるゝとの
おもたりぞあるゝ中人の[illegible]に[illegible]を
なりもちゐれども[illegible]ハ[illegible]の
者中ゝ代ゝ[illegible]をいたゞきし
[illegible]をうつゝ[illegible]をたつと
くする者をみることにあるの[illegible]
をみるゞゝそうあるもれも[illegible]
ず[illegible]を切手[illegible]を[illegible]

四半紙で藏をとりぞいて仏
をかざらしめたまはんことこい願
ぶ所也 謹而 淋雨七月廿九日 上
生前の[illegible]をもとめ侍る

上書

謹而 [illegible]様 西理三年國英判
三年ぶ諸書をみせられ是を見てなの
たまはりたいうるとのゆるしをよそぶ

よとかぶやうまとり あげきかーそ
紙いそしくことに代々[illegible]を
あるくちのとみかりぶ大仮をう
けくあまのまさぶ[illegible]やまやしぶ
ゆゆおもしーく仏のかるびそーろりん
祝ぶ思をはく[illegible]とうに
ぶんぶらぎるをかくのぶく淋漓
ふらつくあえを[illegible]

[illegible]
[illegible]
げ[illegible]にかゑらるゝめられあるべくぞ
んどたてまつりきうほんをうらみ
たてまつらぬとりみぐさをなげ[illegible]
しはれば御[illegible]
をせんどまるハせんどを[illegible]せん
わかあるべくこれ[illegible]を[illegible]

さんげためのりくゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]せり引て編笠いそぎ
[illegible]をきつゝ越かゝの事
あり中村[illegible]たるにも上を
おりびさみあるを[illegible]なり[illegible]
うらなげ[illegible]をとゝさられ[illegible]
[illegible]の[illegible]ある[illegible]候
[illegible]のおそれみあるゐい[illegible]をなすべく
[illegible]ゆくかぎりを[illegible]

[illegible]これあるべきなりされば[illegible]
[illegible]にたいたまひきこゝかうつた
[illegible]なりるべし義のあるに
わこり[illegible]の[illegible]に
[illegible]だ[illegible]を[illegible]
[illegible]をかさねて[illegible]を
[illegible]の見[illegible]にかゝつけらる
べくとゝしは[illegible]なりと

随意して程なく中風発りて五體さへ
平生に斬罪せられけることをも是非なけれ

宗勝直則密謀の事

附 喝禅峯尊の異見の事

引て綱越中守ハ其かへるさりて中にて原
日ごろ人月さいだんありし事をかくる
其後人をちらしけるをいふ居寄ていと

されけるハ我つくしとおもひしに錦組を
夜毎して城屋の庭によされバあれこそ
き滋芽なりし荒浪かきふうよ云ハ京都
げるが人なれバおとうたつけぬそかた
見まぞしきりところさせて我ハもうざ
る報まてし早忠死骸をかりきまとり
いり殊事に公儀にききさしハ公の
破滅なりれけさたさべのりげと後日に

病死といふらんびゝ常ゝとゝきれいぶ
きの道場等あんへよだんぜ後きさ
とにそうゝ連ゝそうたあんへを吸あつめ
ける薬湯をもて切臣飯ちの例よ詰を
たりし吟味人きゝり也家業
なもちゝ左ゝ右ゝ詰をゝきれけき
ぜ薬左衛門よかゝねけるい家お後
のみ口ゝ大名屋ゝ離ゝ

はらるゝのみなゝびゝのるゝ詰ゝ
詰て家臣ゝ詰をせり者ゝ性ゝ
味たれゝ連ゝ軍ゝなさけなゝ若
を思せんやあまりにをつたいなゝ
さとかりとおゝねければ家業にむゝ
いとゝしけるハおせがゝこまりたて後
り者ゝうさりなびゝからおがゝめんぜく
縁家極悪死ゝなんせたてられ

乃んま湖虚より序急以下の心まで
たせのかはりて吟味し上古名人師匠まで
修練し独心練則忽ち空しく観身の上
にもあらしかるべくおつぎつぎそのうちかなふべん
又も此思量あるべくしてそとをしけれバ
直則ハ私角独言葉をいふさび家籍
うちそとおもひし序破急ならんかとめのあ
ある事もさ謡えんやまし向の事

などか一雅の深と鶴えんぎあれども来こし
こと気を歩るべくのこびとどとしされけま
など直則家膳にむのゐそれハ君のをとだ
しめし遠なり雅の深閑こそ此声
それ名でも和ま老中数の其からくだ
事跡あつされすくハあるまいぞのりこ
とにて候錦かの木屋で通風乱ちなち
だ川跡乱そあろしよまてせつがゐのよかなだ

ぞ遊郭のくるわの老婆どもに諸じ
所川の花魁衆かしらめとりあつ
まとり上ると雷様ともよび恐れある
座しきの中をきりよせんとしてもし
かつぎことを企ておちてかるつくわ
ざるをまねくふてそしりあとこと
けれだ家賊あれる風えてせつ
がねれたのりことをだ止よける

三浦屋高尾雄こと事
所潮干三郎曽之沢あり家京
東国男文沢長こと事

鍛冶家公方は企あると八幡まもり
たまもび鍛冶にて家にらよられける
至氏二尾屋が門よる高雄ゆの松若あ
り鍛冶家沢如しあとがれ知ていまそか

よひたるものとゆりもゝ詩歌ハ源家
とゆゝしき源則保卿に風雅をあらそ
ひ世のかゝらんをなゝめ思ひ給ハ銘肝
なほ放逸なりとて遁世の人のあるに
さゝがの分とかなとよりてハ法性寺銘肝
河橋をひてゝもたゞ風雅のおもむき
のみ都ゝ武家ハ弓馬ことゝいとゞ
銘肝ハ角源則保卿をとバ笑まと

おゝゝしくあるはかりを雄々しくもしきと
らるゝもて家角をつくゝ武ハ
どもし未熟と笑ひ給ハ
かなもゝざるまゝ
まゝゝゝとゝれ
師のあざる蛙まゝ
明ハ生りでゝ
ゝ蛙を賣るものかくゝまゝ

[illegible]をなまぬるせばきてあてちうづけれ
[illegible]ものしてこそ[illegible]云葉も文書
文業をなをたらびさゆるも積よあそ
[illegible]ぐすも[illegible]の[illegible]
人[illegible]て[illegible]年月をとそねたづみ
[illegible]ものん
ものをなりぐてと[illegible]ばる雄
[illegible]の[illegible]をうえしくあり

こえかくけさしけるたびりしかく
あまるこの[illegible]ればまことの[illegible]
みそとけざるわどハ[illegible]
まどーとしはれば[illegible]れをしきて
[illegible]ばこ[illegible]て社[illegible]
たれせしめんとゆのーりければ[illegible]雄
いみーれ[illegible]ーそうもど[illegible]
とかとるまつて[illegible]

わざさせたまふこともましてかぎりなした
る事もあらじかしあるまじき宿世の因
果なれば后なる眺められせんこともあれ
をとゐもおもへべからずとものをこそさ
情なくゆゑければ一家の興をも思えて
縁家いきどほりけれさてまた識ふ
とてなし文の秘密さへいらぬことく
たちまちいられたまふかくてこそ権〱

秘すれ明をまのあたり嘗て文細〱と書
しるしめして洛陽十二の所ヶ奥然ば
故先とし八緩〱と地もなんお入
りし識しよ佛殊に勅りしゑと
やらかなりとも仏在の中よそくらし
ちぬぐしくぞんじしけれども
さてハ根本陸奥の大守なる
秋沢の事極りて近〱

[illegible]にて[illegible]
[illegible]二世と[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]庵とりて[illegible]の
[illegible]君の[illegible]
[illegible]を[illegible]して死し
[illegible]せんとおもひ[illegible]
せし[illegible]とて[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]なりを[illegible]の
[illegible]を[illegible]せ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]るこゝろなきまゝに帰れる[illegible]
[illegible]をかゝむもの[illegible]の海[illegible]と見[illegible]
[illegible]なるゝ[illegible]もなく
[illegible]たゞくゝ[illegible]
[illegible]つゞのもなりしも屋屋
[illegible]一[illegible]海[illegible]て[illegible]
[illegible]うゝかゝと[illegible]海[illegible]の[illegible]
[illegible]くゝ[illegible]ども[illegible]なく

[illegible]早[illegible]陽[illegible]川流[illegible]
[illegible]中[illegible]かゝ[illegible]ものハ[illegible]の
[illegible]づと[illegible]

[illegible]

[illegible]の中の[illegible]
[illegible]

[illegible]ゆかしきハ[illegible]わとかみ[illegible]
[illegible]くゝ[illegible]ど[illegible]入[illegible]
[illegible]の[illegible]

露志らじとうれしかりしかのきミ
なると八雲程もしらざりし
あげしく数ひたり勘気さとも
よりし詠かべきに何までも数着
と思ひゆく添しともかしあげし宿
私を見のきちふとおもとひし花
あやし勘帰とこそかせし事のかな
しさ涙中八世みじの隣ごかれ

鏡の一房上段のしとも袖にて
一重かさね上りし数しよりし
あげ後も勘当ハ淀の正子の
数しなれども御前にあるくきの命
ちすも見るべし都しも中でとめあらて
とかしよりしめそこしかし
数着段　ころ雄分
心まづ月かこ方見流らましぬれまで十三郎

御事やうくんとなるこゝとを故えんは
きたし公論きたましいも龍ん世
ゝ夢とさとべきうけ〻あんゞ城
ありゝゞうとかとるはたゞて海世後
和といはる男らをとゞよんでゞ
けるハ陸奥へさ顧りて帰入後
事ありたすまれたまひなんゞと云
けれゞ海和少ゝ御ゝかけて帰

殺とれる男たるとの人とたのもれて
火すゝ入すゝ入とゝ海和事ゝ
うんと云はけれゞ海国せられゞ
ゝ〻雇ゞ和をかゝ海和ゝ
みせかくのどゝ事かれり殺
れをゞ御さうとハかくゞも分まゞ
けれべかなゞゞ龍殺家ゝ俗ゝ
ゝ〻帰ふせれば楽をきうんゝ

不つもれどもかれ葉はあらそひがふ
荒蕃あまたを奉ずるに素藤みつゝあるそろ
しまうせびきれだ洲俣とのもとはたを
波遠義よりかうり編笠を待く
たまきりはたんやとかうりはきべ波平打
黙い首やもすれ殺のこ法平なり編笠義
あゝ波間えいかうこれうちれた
今夜首夜ゝかうらんはをうがひか

のことのをとはり教えるの面　紅葉かえ
たまくとを義をもはげきの清盛れだ
十三の門波平を門わかみを義の
敵を義ゝ刀よりあゝ打新箱をた
ゆ野ん物とこ悦いこみ松波なる
代を生清の刀部天八ありけるをあ
ふいけれだ波平これを文れ儀ゝ
徳体ゝ笑ければそこも第生

たまゝ〻彼の女の一ハ部よの四と
ある屋敷にそなさどものとゝ踊
しき所ける編笠の今宵の月
あらりしいとんかく引く編笠
れ笠ぬりたるれぬ雄ぶ
編よ所ゝどまりはれば波をあとの
きらんこゝくもゆ所しんぶかん
ゆすのまゝにたゞ〻ぬまん

をこゐたまいし〻 濃都のむらしかく
やありけんらとゝ家なのまて
なりざるこそ姫なけを祇園の
袴姿に紅を安藤四郎にて
成家柄の中階あぐりの者
ゝ用屋をとゝもつけられたり相
ゝ物盛つゝ紅の衣の年文分百
ゝ月ゝ〻の表世間詩しあん

やうにはれだし思ふまゝに出遊び
さるところ老せりしかども殿年若にする
ゆゑにつゝしたる板の事もある者
拙筆ゆるせたまへ同じ道にたしなむ
ものゆるすべからうるべく
金子入れ事ことに海道金子にても
こさるべしとやもとめ賞されば
今年はもあんよ遊しくわが風流
義世事世遊さて加敬しうあるこ
しもなく別合をかくまゐりたる
ゆゑをだんし風をを詠ん時沖
岩屋殿よりこゝにぬれ鶴ゆかき
よろうこゝに笑るをまちうるかの
里をいかもむきたるまことなる
なおけいせいはいとの敬とわ
し弟をこし　あと　のかせしもる事の

ちよまれをみる庵し

奥州低耆萩巻之二終

樂天堂佐藤了菊

花書